Sagara, Nov. 27, 1963).

Nom. Jap. Beni-kinugasatake

Distr. Philippines, Borneo, Java.

Explanation of the plate III

A. *Dictyophora indusiata*, with long entire type indusium (Kyôto. Photo. by Nishio)

B. *D. duplicata* with short truncate type indusium (Karuizawa. Photo. by S. Watari)

C. *D. indusiata* f. *rosea* (Peradeniya of Ceylon. Photo. by N. Sagara)

D. *D. indusiata* f. *lutea* (Kyoto. Photo. by K. Takahashi)

□Guttenberg, H. von: **Grundzüge der Histogenese höherer Pflanzen** I Die Angiospermen pp. 315. Gebrüder Borntraeger. Berlin 1960 DM. 110. 植物の組織形成を細胞の集団の変化の pattern として徹底的に追求している。この種の研究は比較形態学にはもちろん，生長生理関係にも，また細胞分化を生理的に扱うにも，その基礎として絶対必要であるが，従来あまり体系的には行なわれていない。従来の発生学が初期発生における細胞の destination の追跡のみに終ったことを批判し，胚形成からどのようにして，後の形態形成の原動力となる生長点の秩序が確立されるかを調べることが発生学の眼目であるとしている。これは特に著者の専門とする幼根の成立過程の追跡において，最も鮮やかに示される。根の initial が胚のどの細胞から生ずるかは，胚形成の各 type によって決まっているが，実はこの initial なるものは，これが分裂して幼根の細胞を作っていくのではなく，その周辺の細胞が分裂をくり返す過程で，生長点の秩序をつくり上げていく。initial cell といわれるものは，この組織群の先端にあってこれらを束にして結びつけているだけである。この意味で Verbiudungszelle という新しい名称が提案される。これらの事実から，初期の分裂は組織の分化にとって基本的に重要ではなく，組織の mass における位置，著者の言葉によれば Gesetz der Lage が最も大切としている。さらに特殊の場合として，イネ科及び沼生目のあるものでは，普通 radicle と呼ばれるものは実は第一の側根で，生根はごく初期の組織分化のみで止まることを示しているのは興味深い。茎，葉については著者自身の仕事ではないので，根の場合ほど迫力がないが，これについても将来徹底的な研究が行なわれるならば，もっと秩序ある pattern が見出されるであろうと述べている。 (山下貴司)